

鹿児島県トカラ列島から得られたベラ科魚類ズナガアカボウ  
*Bodianus tanyokidus* の記録

畑 晴陵<sup>1\*</sup>・高山 真由美<sup>2</sup>・本村 浩之<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田4-50-20 鹿児島大学総合研究博物館(水産学研究科)

<sup>2</sup> 〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

The northernmost record of a wrasse, *Bodianus tanyokidus*  
(Perciformes: Labridae), from the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture,  
southern Japan

Harutaka Hata<sup>1\*</sup>, Mayumi Takayama<sup>2</sup> and Hiroyuki Motomura<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Graduate School of Fisheries, Kagoshima University, 4-50-20 Shimoarata, Kagoshima 890-0056, Japan

<sup>2</sup>The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

**Abstract.** A single specimen (145.3 mm standard length) of the labrid fish, *Bodianus tanyokidus* Gomon and Madden, 1981, was collected from off Kuchino-shima island in the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan, at a depth of 130–150 m on 21 August 2015. Since the species has previously been known only from Okinawa-jima island in Japanese waters and the record has been considered as the northernmost record for the species, the present specimen of *B. tanyokidus* represents the first record of the species from Kagoshima Prefecture and the northernmost record for the species.

**Key words:** fish fauna, distribution, range extension, *Bodianus tanyokidus*, morphology, Teleostei.

(要約)

2015年8月21日に鹿児島県のトカラ列島口之島沖の水深130–150 mから1個体のベラ科魚類ズナガアカボウ *Bodianus tanyokidus* Gomon and Madden, 1981 が採集された。本種の分布の北限はこれまで沖縄島近海とされており、本報告は鹿児島県からの初記録であると同時に、本種の北限記録となる。

ベラ科タキベラ属魚類 (Labridae: *Bodianus*) は大西洋とインド・太平洋に広く分布し、現在43有効種が知られ (Gomon, 2006; Parenti and Randall, 2011), 日本からは17種が報告されている (島田, 2013)。このうちズナガアカボウ *Bodianus tanyokidus* Gomon and Madden, 1981 は、これまで国内において沖縄島からのみ標本に基づき報告されている (具志堅, 1972; 益田ほか,

1975; Gomon and Madden, 1981; 山川, 1984; 島田, 2013)。

2015年8月21日に鹿児島県のトカラ列島北方からズナガアカボウ1個体が採集された。本標本は本種の鹿児島県初記録となると同時に北限記録となるため、ここに報告する。

計数は崎山・瀬能 (2008) に、計測方法は Gomon (1997) にしたがった。標準体長は体長

\*連絡先 (Corresponding author): k2795502@kadai.jp

と表記し、ノギスを用いて 0.1 mm 単位まで計測した。ズナガアカボウの生鮮時の体色の記載は、ホルマリンによる固定前に撮影された記載標本のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）に保管されており、上述の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

***Bodianus tanyokidus* Gomon and Madden, 1981**

**ズナガアカボウ**

(Fig. 1; Table 1)

**標本** KAUM-I. 78687, 体長 145.3 mm, 鹿児島県トカラ列島口之島北西沖 (30°03'N, 129°51'E), 水深 130–150 m, 2015 年 8 月 21 日, 釣り, 大黒丸。

**記載** 計数・計測形質は Table 1 に示した。体は前後方向に長い長楕円形で側扁し、体高は背鰭第 7 棘起部で最大。体背縁は吻端から背鰭第 7 棘基部にかけて緩やかに上昇し、そこから尾鰭基底にかけて緩やかに下降する。腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて緩やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけて体軸と平行となり、臀鰭起部から尾鰭基底にかけて緩やかに上昇す

る。背鰭起部は鰓蓋後端直上に位置し、背鰭基底後端は臀鰭第 10 軟条基部上方に位置する。背鰭外縁に明瞭な欠刻はない。背鰭基底部は 2 列の鱗で被われる。胸鰭起部は鰓蓋後端直下に位置し、胸鰭基底後端は胸鰭起部よりやや後方に位置する。胸鰭後縁は丸く、胸鰭後端は背鰭第 6 棘と第 7 棘の下方に位置し、総排泄孔には達しない。腹鰭起部は胸鰭第 4 軟条基部の下方に位置する。たたんだ腹鰭の後端は背鰭第 7 棘直下に達するが、総排泄孔には達しない。腹鰭の最後の軟条は体と鱗膜でつながる。臀鰭起部は背鰭第 10 棘下方に位置し、臀鰭基底後端は背鰭基底後端より後方に位置する。尾鰭は截形で、後縁の中央部が後方にやや突出する。総排泄孔は正円形で臀鰭起部前方にある。吻端は尖り、上顎の先端は下顎の先端よりもわずかに前方に突出する。上顎後端は眼の前縁直下にわずかに達しない。前上顎骨の先端には、大きく鋭いほぼ同大の円錐歯が 2 対あり、その後方には小円錐歯が密生する。鋤骨歯を欠く。両唇は厚い。下顎の先端には 3 本の大きく鋭い、円錐歯があり、その後方に小円錐歯が密集する。両顎歯はすべて固着歯である。眼の被膜部と瞳孔は正円形。眼隔域は平坦。鼻孔は 2 対で、ともに円形を呈し、前鼻孔と後鼻孔はほぼ同大で互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鰓蓋骨



Fig. 1. Fresh specimen of *Bodianus tanyokidus*. KAUM-I. 78867, 145.3 mm standard length, off Kuchino-shima island in the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. Frozen for about 3 weeks after collection.

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of *Bodianus tanyokidus*.

	This study	Gomon (2006)
	KAUM-I. 78687	Holotype and 4 paratypes
Standard length (SL; mm)	145.3	131–177
Counts		
Dorsal-fin spines	12	12
Dorsal-fin soft rays	10	10
Anal-fin spines	3	3
Anal-fin soft rays	11	12
Pectoral-fin rays	17	17
Pelvic-fin spines	1	1
Pelvic-fin soft rays	5	5
Branched caudal-fin rays	6 + 6	—
Pored lateral-line scales	36	36–41
Scale rows above lateral line	4	4–4½
Scale rows below lateral line	14	13–14
Predorsal scale rows	11	11–12
Gill rakers	3 + 11 = 14	12–17
Measurement (% SL)		
Body depth	26.5	23.0–24.6
Head length	37.1	35.4–37.4
Snout length	13.3	11.2–13.5
Orbital length	6.1	6.1–7.0
Interorbital width	6.8	5.9–6.9
Dorsal-fin base length	51.5	47.5–49.0
Anal-fin base length	24.5	22.8–24.9
Caudal-peduncle depth	13.7	13.1–13.9
Predorsal-fin length	38.3	—
Preanal-fin length	65.3	—
Preanus length	61.8	—
Pectoral-fin length	17.1	16.4–18.3
Pelvic-fin length	17.1	16.1–17.5
1st dorsal-fin spine length	4.9	5.1–5.9
2nd dorsal-fin spine length	6.3	6.3–7.2
Last dorsal-fin spine length	10.4	10.2–11.5
1st anal-fin spine length	4.3	4.3–6.0
3rd anal-fin spine length	10.1	9.5–10.7
Medial caudal-fin ray length	21.1	19.8–24.7

後縁、鰓蓋後縁はともに円滑。主鰓蓋骨後縁は後方に突出する。体は一様に円鱗に被われるが、頭部では、両顎、眼の周辺、胸鰭腋部および前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の縁辺部は無鱗。背鰭前方被鱗域の前端は眼窩後端よりも後方に位置する。側線は完全で鰓蓋上方から始まり、尾鰭基底にかけて体背縁に対し平行にはいる。擬鰓には細長い18本の鰓弁が密に並ぶ。

生鮮時の色彩—体背面は明るい山吹色を呈し、眼の周囲は鮮やかな紅緋色。体側は一様に

桃色がかった白色。上顎後端から鰓蓋後縁にかけては淡黄色。鰓蓋後部に上下方向に長い楕円形の黒色斑が入り、その下端は胸鰭起部より下に位置する。胸鰭起部上方から後方に向かう細い紅緋色の縦帯を2本有する。背鰭、腹鰭、および尾鰭は菜の花色。臀鰭は白色がかった淡黄色。背鰭、臀鰭および尾鰭の両葉には紅紫色の縦帯が2本ずつ入る。尾鰭基部中央部には赤橙色斑が入る。胸鰭各軟条は紅紫色で、各鰭膜は無色透明。胸鰭基底部は明るい淡黄色。瞳孔は青みがかった黒色で虹彩は真鍮色。

**分布** 本種は国外ではコモロ諸島、モーリシャス、マリアナ諸島、台湾台東から知られており (Gomon, 2006; 島田, 2013)、国内では沖縄島近海の水深100 m以深 (具志堅, 1972; 益田ほか, 1975; Gomon and Madden, 1981; Gomon, 2006; 島田, 2013) と鹿児島県トカラ列島口之島沖 (本研究) からのみ標本に基づいて報告されている。

**備考** 本標本は、背鰭が12棘10軟条、前上顎骨先端に2対の大きな円錐歯がある、眼隔域が平坦である、および側線が完全で途切れないなどの特徴で Gomon (2006) が示したタキベラ属 *Bodianus* の標徴と一致する。インド洋から中部太平洋にかけて分布する本属魚類には36種が知られている (Gomon, 2006)。本標本は側線有孔鱗数が36、鋤骨歯を欠く、背鰭前方被鱗域の前端が眼窩後縁よりも後方に位置する、鰓蓋後部に明瞭な1黒色斑があり、その下端が胸鰭基底上端よりも下方にあること、さらに、記載標本の計数・計測値や色彩などの特徴が Gomon and Madden (1981) と Gomon (2006) が示した *B. tanyokidus* のタイプ標本のものとおおむね一致したため (Table 1)、本標本をズナガアカボウと同定した。一方で、記載標本は Gomon (2006) の示した *B. tanyokidus* と比べて体長に対する体高と背鰭基底長の割合がやや大きく、背鰭第1棘長の割合がわずかに小さい (Table 1)。Gomon (2006) が調査した標本はわずか5個体であり、上記の計測値の差が個体変異あるいは地理的変異によるものなのかを判断

するためにはさらなる標本の確保が必要である。また、Gomon and Madden (1981), Gomon (2006) および島田 (2013) は本種の臀鰭軟条数を 12 としたが、記載標本では 11 である。しかし、タキベラ属魚類において、臀鰭軟条数の 1-2 本の変異がアカボウ *B. cylindriatus* (Tanaka, 1930) やモンツキベラ *B. dictynna* Gomon, 2006 などにおいて報告されており (Gomon, 2006 ; 崎山・瀬能, 2008 ; 島田, 2013), ズナガアカボウにみられた臀鰭軟条数の差異は種内変異と判断した。

本種はこれまで国内において沖縄島近海から 2 個体のみが報告されており (益田ほか, 1975 ; 山川, 1984), これが本種の分布の北限と考えられていた (Gomon, 2006 ; 島田, 2013)。トカラ列島産の標本は本種の日本からの 3 個体目の記録となると同時に、本種の分布の北限を約 400 km 更新するものである。

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、原口百合子氏、立川日奈子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の作製・登録作業などにご協力頂いた。標本の採集に際しては、種子島漁業協同組合の関係者の皆様に多大なご協力を頂いた。Museum Victoria の Martin F. Gomon 博士には文献を提供して頂いた。以上の方々には謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群

島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## 引用文献

- Gomon, M. F., 1997. Relationships of fishes of the labrid tribe hypsigenyini. *Bull. Mar. Sci.*, **60**: 789–871.
- Gomon, M. F., 2006. A revision of the labrid fish genus *Bodianus* with descriptions of eight new species. *Rec. Aust. Mus., Suppl.*, **30**: 1–133.
- Gomon, M. F. & Madden, W. D., 1981. Comments on the labrid fish subgenus *Bodianus* (*Trochocopus*) with a description of a new species from the Indian and Pacific oceans. *Rev. fr. Aquarilo.*, **7**: 121–126.
- 具志堅宗弘, 1972. 原色沖縄の魚. 247 pp. 琉球水産協会事務局, 那覇.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫, 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 379 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 本村浩之, 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 70 pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Parenti, P. & Randall, J. E., 2011. Checklist of the species of the families Labridae and Scaridae: an update. *Smithiana, Pub. Aquatic Biodiver., Bull.*, **13**: 29–44.
- 崎山直夫・瀬能 宏, 2008. 相模湾初記録となるアカボウ (スズキ目ベラ科) について. 神奈川県自然誌資料, **29**: 125–128.
- 島田和彦, 2013. ベラ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版: 1088–1136, 2045–2056. 東海大学出版会, 秦野.
- 山川 武, 1984. ズナガアカボウ. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑: 197, pl. 196-A. 東海大学出版会, 東京.
- (2015年9月29日 受領, 2015年11月6日 受理)